

横浜における習慣的な買い物行動を 誘発する施設の要因分析

Factor analysis to induce customary shopping behavior



D班 芝浦工業大学Bチーム

D Group Shibaura Institute of Technology B team

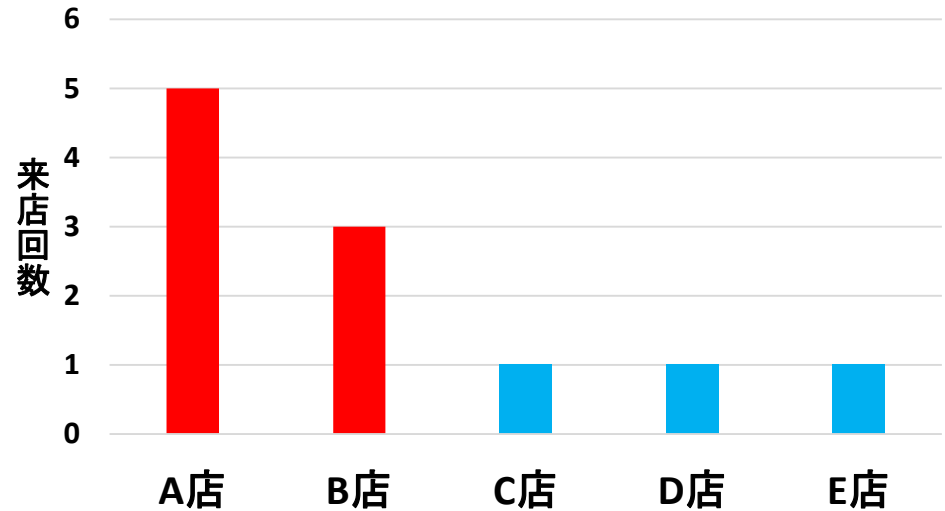
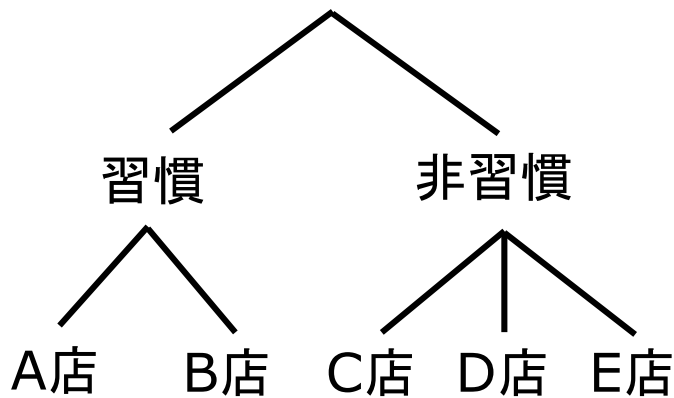
樋野匠海 夏瑞韜 本山莉紗子

幸本健 笠原隆弘

昨日の振り返り

Background and purpose

同一店舗を利用する買い物トリップの習慣性に着目し
習慣的な買い物行動が行われやすい施設の要因を解明する



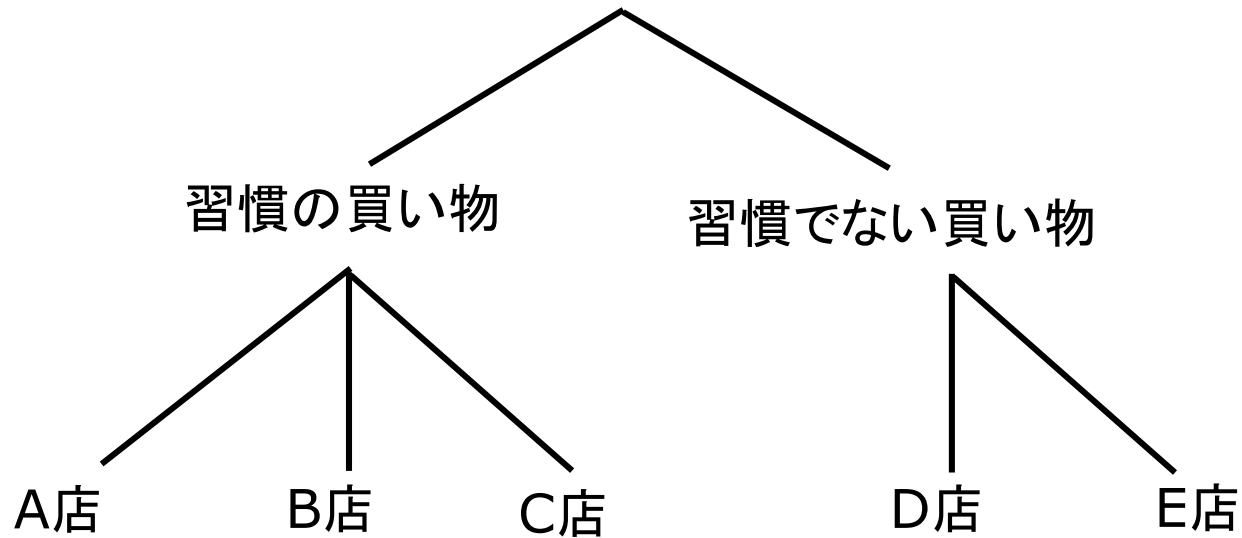
Q. なぜネスト構造を定義しようと考えたのか

Q. 空間的な基礎分析や説明変数を取り入れてみては？



一晩掛け，議論不足であったモデル構造・説明変数の検討

モデル構造(NL)



説明変数

<店舗の特徴を表す変数>

- ポイントカードの有無
- 営業時間
- 幹線道路沿いか etc...

<個人と店舗との関係>

- 自宅から店舗までの距離
- トリップ開始時刻から閉店までの余裕時間 etc...

<買い物に伴う行動について>

- 仕事後の買い物か
- 私事後の買い物か etc...

<個人属性>

- 性別
- 免許保有 etc...

結論

サンプルデータ上で「習慣・非習慣」の定義
ができずモデル推定にまで至らなかった



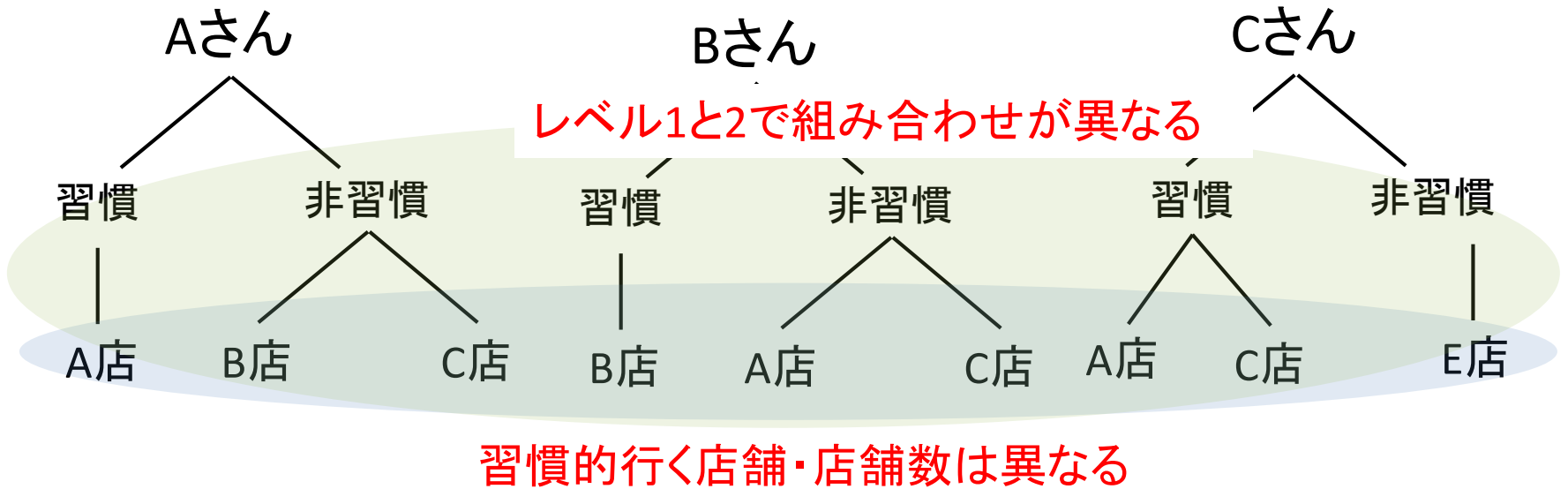
個人が利用した各施設の来店回数に閾値を設け、
トリップを「習慣・非習慣」に分類するだけでは
定義が不十分であった。

目的地選択モデルになった？

サンプル上の3回 ⇒ 習慣の根拠がない？

来店間隔や頻度など、その他の指標も必要？

モデル構造(NL)



方針

PPデータで観測された到着施設128箇所

↓

個人nが1回以上訪れた店舗をnの選択肢集合Cとする

↓

Cの内3回以上訪れた店舗を習慣的に訪れる店舗として個人ごとにツリーを組む

推定まで至らなかった理由

レベル1と2の組み合わせをプログラム上で表現できなかった

